

2016年3月期 第2四半期決算説明会における質疑応答の概要  
(2015年11月2日(月)、東京)

**【グループ全体】**

**Q. 現行の中期経営計画に関し、今の進捗を踏まえ、できた点、できなかった点について総括をお願いしたい。**

A. コア事業である加工食品と低温物流に対し積極的な設備投資を行ってきた一方で、営業キャッシュフローの創出という点では計画に届かない見込でありやや不満が残る。ただ、営業利益は計画値である204億円に近づいてきたこと、純利益は計画値で推移していることを考慮すれば、総括としてはほぼ計画通りに進捗しているのではないかと捉えている。

**【加工食品】**

**Q. 家庭用、業務用それぞれの秋以降のマーケットの見通しについて教えて欲しい。**

A. 家庭用はマーケットデータであるインテージSCIの9月までの実績を見る限り、金額ベースでは前年並みで推移している。今春の値上げによる単価影響を勘案すると、実質、数量減の状況が継続していることになる。なお、秋以降は前期のEDLPへの移行の影響が一巡するので、回復傾向に向かうと見ている。業務用は引き続き減収となる見込みであるが、利益率重視の施策を徹底した結果であり、ネガティブには捉えていない。

**Q. 家庭用と業務用それぞれの今後の販売価格の見通しについて教えて欲しい。**

A. 家庭用は今春に値上げを行ったことで、1Qを中心に販売数量が減少したが、販売価格が下がっている印象はない。今後も価格が下がるという見通しは持っていない。業務用も値上げが浸透しており、今後も現状の価格を維持していく。

**Q. 家庭用において以前は大手メーカー間で比較的商品の棲み分けが行われていた気がするが、足元では正面からの競争が起きている印象を受ける。この点に関しどう考えているか教えて欲しい。**

A. 競争自体は決してネガティブなだけではなく、マーケットの活性化にも繋がるため、決して否定的には捉えていない。今後は既存のカテゴリ、商品間での競争を超えて、新たな価値を如何に生み出していくかが重要になると認識している。

**Q. 資料 P3 の国内における「成長が見込まれる分野での温度帯を超えた競争の激化」とは具体的にどういったことを想定しているのか？**

A. 端的にいうと、新たなメーカーや商品の参入による競争の激化を想定している。

**Q. 資料 P3 の海外における「同業他社とのシェア競争の激化」の現状について、もう少し詳しく教えて欲しい。**

A. 米国のアジアフードカテゴリ(家庭用)において、当社は現在第3位に位置しており、シェアは10%程度となっている。現状、当カテゴリ内において、各社が独自性を如何に発揮するかのしぎを削っている段階である。

**Q. アジアンフードカテゴリ内での競争の激化によって、価格は下落傾向にあるのか？**

A. 足元で価格が下落傾向にあるという認識はない。

**Q. 資料 P13 の営業利益の増減要因について。増益要因の「その他」が通期で前回見込比6億円の増益となっているが、その理由について教えて欲しい。**

A. 主な要因は2つある。一つは天候不順により生鮮野菜の代替として農産加工品(冷凍野菜)の販売が大きく伸びたこと。もう一つは8月中旬まで猛暑が続いたことで、コンビニ向けのアイスコーヒー用を含め、氷の販売量が好調に推移したこと。

#### **【低温物流】**

**Q. 資料 P13 の営業利益の増減要因について。増益要因の「電力料の変動影響額」が通期で前回見込比7億円の増益となっているが、その理由について教えて欲しい。**

A. 期初見込との乖離要因は、基本料金や従量料金ではなく燃料費調整単価の低下による変動影響額である。燃料費調整単価は外部環境に左右されやすいため、期初時点では前年並みで見えていたが、昨今の値動きが低位安定で推移していることもあり、今般見込を変更した。

**Q. 東京団地冷蔵の一時営業休止により、東京圏では庫腹が逼迫した状況が続いているが、今後の需給環境も踏まえ、御社にどう影響してくるのか教えて欲しい。**

A. 食品の生産拠点の海外移転が進み、原料中心の輸入から製品、半製品の輸入に大きく変化してきた。そうなると必然的に大消費地に近いところに在庫においてデリバリーする機能が求められるため、当社はこれまで東京圏、大阪圏の港湾地区を中心に積極的に設備投資を行ってきた。今後、TPPが進展すると、加盟国以外の原材料を加盟国に持ち込んで生産するケースも起こり得ると捉えており、輸入食料品の更なる増加が期待できる。一方、車両不足やドライバー不足が深刻化しているなか、冷蔵倉庫側の手待時間が問題になりつつある。こうした状況を踏まえると、倉庫側の作業効率の改善に合わせて、拠点の集約化も今後進んでくると考えている。

以上

※当文書は決算説明会当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。